## KS-51VSの取り扱いについて

#### 貯蔵及び使用上の注意事項

- (1) 貯蔵時・輸送時
  - 1. 密閉状態で直射日光を避け室内(望ましくは冷暗所)に保管してください。
  - 2. 輸送および運搬については容器が破損しないよう取り扱いに充分ご注意ください。

#### (2)使用時

- 1. 強酸および酸化剤との接触は品質低下を招くと共に、有害物などの発生もあり危険ですので避けてください。
- 2. KS-51VSはアルカリ性ですので皮膚接触は避けてください。 取扱い時には、ゴム手袋、保護メガネ、保護マスク等の着用を励行してください。
- 3. KS-51VSは飛灰固定化用ですので、水処理用途への使用は避けてください。
- 4. その他で不審な点がありましたら、下記までお問合わせください。

#### 事故、緊急時の処置について

- (1)漏洩時;ボロ布、砂、オガクズ等にしみ込ませた後、集めて焼却してください。
- (2)火災時;大量の水、炭酸ガス、粉末、泡沫消火器を使用して消火してください。
- (3)皮膚付着時;直ちに大量の水、温水または石鹸でよく洗い落として下さい。異常を感じた場合は直ちに専門医の診断を受けて下さい。
- (4)眼に入った時;直ちに大量の水で(少なくとも15分以上)よく洗眼し、眼科医の治療を受けてください。
- (5) 誤飲した時;口の中を水洗し、できるだけ早く医師の手当てを受ける。

廃棄または処理方法;特別に管理された焼却装置にて焼却処分してください。

KS-51VSの急性毒性;経口 ラット LD50>2000mg/kg

荷姿; 20Kg缶、250Kgケミドラム、コンテナー、ローリー等。

お問合わせ先

## 川重商事株式会社

大 阪

〒530-0057 大阪市北区曽根崎2丁目12番7号(清和梅田ビル12F) 産業機械部一課

Phone: (06) 6360-3154 Fax: (06) 6361-2830

之士层

〒450-0002 名古屋市中村区名駅3丁目25番9号(堀内ビル8F) 名古屋営業所

Phone: (052) 586-7271 Fax: (052) 586-7275



# 重金属固定化剤

# 飛灰•燒却灰処理用 KS-51VS



川重商事株式会社

我が国の一般廃棄物は現在、5,000万トンを越える膨大なものとなっており、最終埋立場の容量にも限りがあります。1992年の廃棄物処理法改正に伴い、飛灰は特別管理一般廃棄物に指定され、適正に処理・処分することが義務付けられることとなりました。

このたび、当社ではこれらの問題を踏まえて重金属の溶出防止を目的として、液体キレート剤 "KS-51VS" を販売いたしました。

## 1. KS-51VSの特長

#### 1)優れた重金属除去効果

強力なキレート効果により飛灰中の重金属と強固で安全性の高い錯体を形成し、従来困難であった鉛をも固定化します。

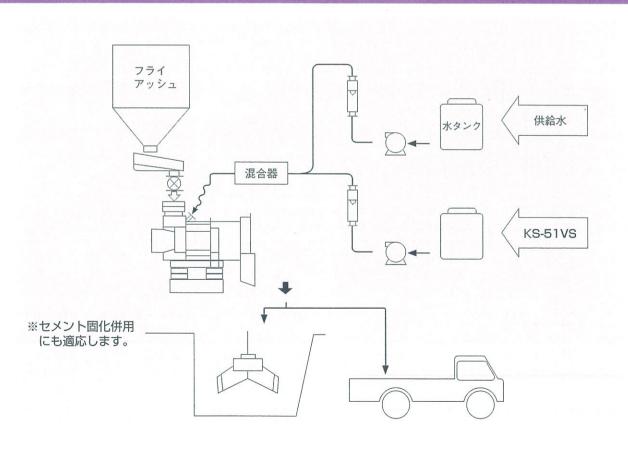
#### 2) 減容化効果

セメント固化のように容積の増加がなく、処理飛灰の運搬が容易で埋立てスペースの節約もできます。

#### 3) 反応速度が迅速

飛灰と混合するだけで、容易にしかも短時間に重金属を安定化します。

## 2. 飛灰処理システム (KS-51VSによる飛灰処理システム)



## 3. KS-51VSの諸性状

KS-51VS	外 観	比 重	рН	粘 度	凝固点
	淡黄色~淡橙色 液体	1.2~1.3	13~14 (25℃)	<10mPa·s (25℃)	<−10°C

## 4. KS-51VSの性能実施例

#### 表1. 飛灰中の重金属含有量の測定結果

	Cd	Pb	As	Cr <sup>+6</sup>	T-Hg
含有量(mg/Kg)	75	1700	2.4	<2	46

#### 表2. 溶出試験結果 (mg/L) (環境庁告示13号)

キレート剤	添加率	Cd	Pb	As	Cr <sup>+6</sup>	T-Hg	рН
	0%	< 0.01	36	< 0.01	< 0.02	<0.0021	12.2
	1.0%	< 0.01	2.8	< 0.01	< 0.02	<0.0005	12.1
KS-51VS	2.0%	<0.01	0.2	< 0.01	< 0.02	<0.0005	12.1
	3.0%	< 0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.02	< 0.0005	12.1
	1.0%	<0.01	4.0	< 0.01	< 0.02	<0.0005	12.1
当社従来品	2.0%	< 0.01	0.7	< 0.01	< 0.02	< 0.0005	12.1
	3.0%	<0.01	< 0.01	< 0.01	< 0.02	<0.0005	12.1

### 表3. ガラスバイアル(容量;40mL)に薬剤0.3mL、精製水3mLを加え 飛灰+セメント+水(100:15:20)3gを加え50°Cに加熱したまま 3時間保った後にガラスバイアル内の二硫化炭素濃度を測定した(単位ppm)

キレート剤	CS <sub>2</sub>	cos	H <sub>2</sub> S
KS-51VS	0.9	0.5	ND
当社従来品	12	9	ND

#### 有害産業廃棄物に係わる基準値(政令5号)

	Cd	Pb	T-Hg	Cr6+	As	Se
埋立処分	0.3以下	0.3以下	0.005以下	1.5以下	0.3以下	0.3以下